

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2002019879
PUBLICATION DATE : 23-01-02

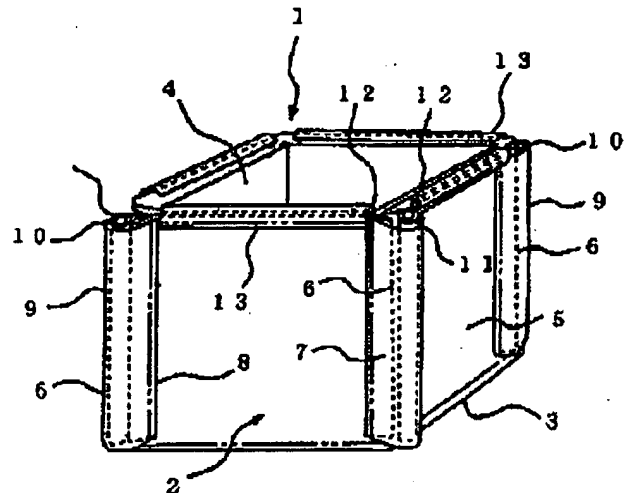
APPLICATION DATE : 13-07-00
APPLICATION NUMBER : 2000212180

APPLICANT : HAGIHARA INDUSTRIES INC;

INVENTOR : MICHIIHIRO KAZUO;

INT.CL : B65D 88/22 B65D 90/20 B65F 1/00
B65F 1/14

TITLE : SELF-SUPPORTED FLEXIBLE
CONTAINER



ABSTRACT : **PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a flexible container which has a simple construction and a high productivity and has improved self-supporting, shape-retaining properties and a large opening, and a supporting member of which can be easily detached after the contents of the container are stored.

SOLUTION: A ridge line part 6 is formed in a sheet constituting side surfaces 5 of the body, made of a flexible sheet, of a box like container 2, with a bottom, in the top of which an opening 4 is provided. The ridge line part 6 is turned up outwardly to form a protruding strip 7 having a predetermined width. A belt like body 9 composed of a flexible sheet is sewn to the strip 7 to form a hollow part 10, and a supporting member 11 is releasably fitted in the part 10. A rigid reinforcing rope 12 is sewn to the entire periphery of the opening 4 to form the self-supported flexible container 1.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-19879
(P2002-19879A)

(43) 公開日 平成14年1月23日 (2002.1.23)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	P I	サーチコード(参考)
B 6 5 D	88/22	B 6 5 D 88/22	A 3 E 0 2 3
	90/20	90/20	3 E 0 7 0
B 6 5 F	1/00	B 6 5 F 1/00	R
	1/14	1/14	A

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全7頁)

(21) 出願番号 特願2000-212180(P2000-212180)

(22) 出願日 平成12年7月13日 (2000.7.13)

(71) 出願人 000234122

萩原工業株式会社

岡山県倉敷市水島中通1丁目4番地

(72) 発明者 三木 武

岡山県倉敷市水島中通1丁目4番地 萩原
工業株式会社内

(72) 発明者 道廣 和生

岡山県倉敷市水島中通1丁目4番地 萩原
工業株式会社内

Fターム(参考) 3E023 BA03 BA20 KA04

3E070 AA31 AB21 AB25 AB26 AB27

DA10 SA01 SA20 WJ10 WK03

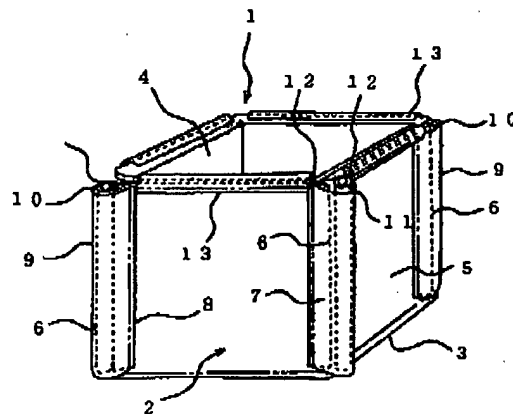
WK20

(54) 【発明の名称】 自立性可撓容器

(57) 【要約】

【課題】 簡単な構成で生産性に優れ、組立時に支持部材を嵌装して自立性、開口性、保形性が良好で、内容物収納後に支持部材を脱着容易な容易な可撓容器を提供すること。

【解決手段】 可撓性シートからなる上部に開口部4を設けた有底箱状容器2本体の側面部5を構成するシートに稜線6を形成して外方に折り出し、折り出した稜線部6から所定幅の凸条部7を形成し、該凸条部7に可撓性シートからなる帯状体9を縫着して中空部10を形成し、該中空部10に剛性を有する支持部材11を嵌脱自在にしてなり、上記開口部4の周縁部において、全周にわたり補強用ロープ12を縫着させた自立性可撓容器1である。



(2) 開2002-19879 (P2002-1A)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 可撓性シートからなる上部に開口部を設けた有底円筒状または箱状容器の側面において、側面部を構成するシートを外方に折り出して縦方向に少なくとも3条の稜線部を形成し、折り出されたシートを稜線部から所定幅の位置において稜線部と平行にシート同士を表裏から縫着して形成した凸条部と、可撓性シートからなる帯状体を長手方向に2つ折りにしてその側縁部を前記凸条部の根元部に縫着して形成した中空部とから構成され、該中空部に剛性を有する支持部材を嵌脱自在にしてなる自立性可撓容器。

【請求項2】 上記開口部の周縁部において、略全周にわたり補強用ロープを内包した可撓性シートを縫着してなる請求項1に記載の自立性可撓容器。

【請求項3】 上記有底円筒状または箱状容器において、隣接して形成された中空部を構成する帯状体の先端同士が上方に延長し連結して形成してなる吊り手を少なくとも一対備えた請求項1乃至2に記載の自立性可撓容器。

【請求項4】 上記開口部の周縁部において、全周にわたり可撓性シートを開口部から上方に筒状に延長して基端部を周縁部に縫着し、筒状に延長した先端部の外周に縛り紐を取付け、容器に内容物を収納後前記可撓性シートを巾着状に縛り付け可能とした蓋状シートを備えた請求項1乃至3に記載の自立性可撓容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、自立性可撓容器に関し、さらに詳しくは、工場における資材や製品の集積、農水産物の収穫、空き缶や瓶などの廃棄物の回収などの広い用途に用いられる自立性可撓容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、工場における資材や製品の集積、農水産物の収穫、空き缶や瓶などの廃棄物の回収などの用途に上部に開口部を備えた可撓性シートからなる大型容器が使用されていた。可撓性シートからなる容器は軽量で、不使用時には折り畳んで運搬も可能であるという利点はあるが、使用時には自立性が乏しいため上方にきちんと開口できずに収納物を投入しにくかったり、安定性が劣るため傾いてしまうというように保形性も劣るなどの問題もあった。

【0003】 上記のような問題を解決するために、特開平8-53129号公報、特開平8-230978号公報には、箱状に形成された容器の上面の開口された各稜部および側面の各稜部に剛性や弾性に富んだ棒状体または平板状体を鐵物などからなるジョイナーで包み込みあるいはポケットに装着して固定し、所望により側面の中央部にも棒状体を固定した自立開口、折りたたみ自在の箱状容器が開示されている。しかしながら、これらの方法では、棒状体を装着する個所が多く縫着固定する方法

が煩雑で手間がかかるという問題があるとともに、不使用時にも棒状体毎運搬することとなり効率的ではないという問題があり、さらに、折たたむ際には、容器形状が立方体状で各側面がほぼ正方形の場合においては前記公報等に記載される折りたたみ方法が可能であるが、直方体などの場合には折りたたみが困難であるという容器の形状が限定されているという問題もあった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上記問題点に着目してなされたもので、簡単な構成からなり、生産性にすぐれ、組立時に支持部材を嵌装して容易に自立性、開口性、保形性を付与できるとともに、内容物収納後に容易に支持部材を脱着して運搬可能であり、所望により重量物運搬用のためにクレーン等による吊り上げが可能であるように吊り手を備え、また、運搬時に内容物がこぼれることのないように蓋状シートを備えた円筒状または箱状の形状を採用可能な自立性可撓容器を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明の自立性可撓容器は、可撓性シートからなる上部に開口部を設けた有底円筒状または箱状容器の側面において、側面部を構成するシートを外方に折り出して縦方向に少なくとも3条の稜線部を形成し、折り出されたシートを稜線部から所定幅の位置において稜線部と平行にシート同士を表裏から縫着して形成した凸条部と、可撓性シートからなる帯状体を長手方向に2つ折りにしてその側縁部を前記凸条部の根元部に縫着して形成した中空部とから構成され、該中空部に剛性を有する支持部材を嵌脱自在にしてなる構成からなるものである。

【0006】 また、上記自立性可撓容器において、開口部の周縁部の略全周にわたり補強用ロープを内包した可撓性シートを縫着してなる構成からなるものが良好である。

【0007】 また、上記自立性可撓容器において、隣接して形成された中空部を構成する帯状体の先端同士が上方に延長し連結して形成してなる吊り手を少なくとも一対備えた構成からなるものが有効である。

【0008】 さらに、上記自立性可撓容器において、開口部の周縁部の全周にわたり可撓性シートを開口部から上方に筒状に延長して基端部を周縁部に縫着し、筒状に延長した先端部の外周に縛り紐を取付け、容器に内容物を収納後前記可撓性シートを巾着状に縛り付け可能とした蓋状シートを備えた構成からなるものが有効である。

【0009】

【発明の実施の形態】 以下、本発明を図面に示す実施の形態に基づいて説明する。図1は、本発明の一実施例にかかる自立性可撓容器を示す説明図である。図2は、図1の有底箱状容器の側面部に凸条部を設けた状態を示す説明図である。図3は、図2の凸条部に帯状体を縫着し

(3) 開2002-19879 (P2002-15A)

て中空部を形成し、該中空部にパイプを嵌装した状態を示す説明図である。図4は、図1の有底箱状容器の開口部に補強ローブを縫着した状態を示す説明図である。

【0010】図1において1は自立性可撓容器である。該自立性可撓容器1は、可撓性シートからなる上部に開口部4を設けた有底箱状容器2の側面の4角稜部において、側面部5を構成するシートを外方に折り出して縦方向に4条の稜線部6を形成し、折り出されたシートを稜線部6に沿って縫着して中空部10を形成し、中空部10にパイプを嵌装した状態を示す説明図である。

配置し、帯状体9の側縁部を凸条部7の表裏から重ね合わせて凸条部7の根元部8に縫着する方法がある。また、他のひとつは図3の右方に示すように、2つ折りした帯状体9の側縁部を重ね合わせて凸条部7の根元部8に凸条部7と平行に配置し縫着する方法である。これらの方法のうちでは、美観上から前者が好ましい。

【0013】上述のように凸条部7を縫着して形成した後、中空部10を縫着して形成してもよいが、生産性の点から、縫着による針の空入によるシートの強度劣化を防止する観点から、中空部10を形成するシートは、中空部10の形成後に縫着して形成する方が好ましい。

Best Available Copy